

廃棄物リサイクル部会活動報告 ～2年間の活動をふりかえって～

部 会 長 江 本 英 治

(部会活動のスタート)

この部会は、私の他に、小売業を代表する辻さん、社会教育活動団体を代表する村瀬さん、それに市民公募の森岡さん、中村さんの5名で活動しました。

そして、日本福祉大学の千頭先生からのアドバイス、清掃センターの皆さんのご協力を得ながらの貴重な2年間でした。

スタートしたのは、2年前の夏でした。

まず、最初は、ごみの減量化を図るための現状把握から始めました。

清掃センターも、私は初めて見学させていただきました。



(清掃センター資源収集常設場)

(部会活動の内容)

何回ものディスカッションの末、活動項目を次の3点に決めました。

①レジ袋削減事業

②市民リサイクル率向上事業

(内容ー1) 資源の出し方をきちんと理解できるパンフレットの作成・配布

(内容ー2) ごみ集積場所「見守り隊」の結成

以上のうち、ごみ集積場所「見守り隊」の結成には至りませんでした。①と②のパンフレット作成・配布は、東海市と各種市民団体等、皆さんのご協力で実施することができました。

特に、レジ袋の有料化は、事前準備と理解活動は丁寧に進めました。

マイバッグ作成教室の開催、市民アンケートの実施、市内大手スーパー・コンビニエンスストアでの事前キャンペーン等を踏まえて、近隣市町に遅れることなく、スム

ーズにスタートが切れました。

おかげさまで、当初はレジ袋辞退率が不安でしたが、21年3月には参加協力店でのレジ袋辞退率が88.5%となりました。当初の予想を上回る成績で、ほっとしました。



(マイバック作成教室の開催)



(東海市レジ袋削減に関する協定締結式)

(部会活動の残したもの)

何事も、十分な事前準備、理解活動が大切であることを確信しました。

この2年間、清掃センターの皆さんにご指導をいただくばかりで、リデュース、リユース、リサイクルについて理解ができた程度と、環境基本計画推進委員としては、はなはだ未熟な委員でした。

とはいえ、妻とマイバッグを持って、スーパーに買い物に行くことが、ごく自然な行動となっている自分を見て、この活動は間違いなく地に着いた「環境貢献活動」であると確信を持つ、今日この頃です。



(リサイクルフェア～ごみの中の宝物展～)